

チーム名	梅川ゼミナール	大学・学部	観光学部交流文化学科	訪日インバウンドステージ
プラン名称	TO the GatE of International, Mashiko			
リーダー名	根本堅太	テーマ	訪日インバウンド誘客を促進する「観光まちづくり」	本選出場 インバウンドインサイト賞
指導教職員名	梅川智也			
メンバー名	池井戸晃輔、島元奈美、小原海裕			

栃木県益子町

→多様な観光資源をもつ町



観光協会へのインタビュー、フィールドワークを通して見えた課題

- 1,観光協会も含め、資源の価値が認識されていない
- 2,陶器市以外で消費活動につなげにくい
- 3,滞在型の観光客が少ない
- 4,地域資源のブランド化がされていない

ターゲット: 世界中の陶芸に興味を持つ人たち

- 例
- ・**オーストラリア**: TAFEと呼ばれる公立の専門学校で陶芸を専門に学ぶ人が多数いる
 - ・**ドイツ**: 陶器の都市ヘール・グレンツハウゼン市など陶器ネットワーク拡大を図る都市がある。
 - ・**イタリア**: 陶器市など陶芸文化の根付く国。陶芸留学先としても人気

→ 長期滞在×日本の伝統的なモノづくり文化を学ぶを益子町で実現!

益子町全体を世界中から陶芸家が集まる「陶芸学校」に!



アルベルゴ・ディフーズを参考に、学校の機能を街全体に分散。益子焼という世界に誇れる町の文化を活用し、多様な主体による全く新しい滞在型観光地「スクールタウン」を提案します。

例



教室→益子町にある窯元で直接陶芸家に学ぶことができる。さらに、伝統的な登り窯も利用することで、町の伝統再興に貢献。



食堂→町に多数存在するお蕎麦屋さんやパン屋さんなどを割引料金で利用することができ、益子の豊かな食を堪能。



寮→町の既存の民宿、空き家を活用。学びに来た学生が好きなだけ陶芸に集中できる環境を実現。



遠足→町の小・中学生と陶芸づくり。町の文化財の見学。また藍染工房や酒造も見学することで町の伝統文化を多角的に学ぶ。



祭 文化祭→半年に一度「世界の陶器市 in Mashiko」の開催。外国人の学生による作品を展示し地域住民に陶芸の多様性を感じ取ってもらえる。

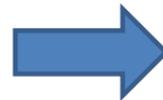
長期滞在に来た学生に充実した環境を整備するとともに、短期滞在を目的とした観光客にも満足してもらえるまちづくりを実現します。

実現可能性

地域資源活用事業として国から認定を受ける

政府から法的措置や金融措置など受けることができ、産官連携の街づくりを実現します

益子焼協同組合
益子町商工会
益子町役場



効果

留学期間6ヶ月料で費用828000円
6ヶ月ごとの受け入れ人数を40人とすると
留学費用だけで**年間66,240,000万円**の経済効果

また関係人口の増加によって、口コミによる陶芸家の間で益子町の情報が爆発的に拡散。
→**毎年滞在人数の維持、向上が見込まれる**

また初年度以降は、留学生による口コミ効果で、陶芸に興味を持つ人の間で急速に情報が拡散されることが予測される
→**確かな継続性を持つ**

PR方法

1,ユーザー数約24億人のFacebook上にて益子町紹介ムービーと共に、留学の宣伝。

2,「pottery world」というサイトの開設。世界の陶芸の技術や歴史、学ぶことができる場所を国別で紹介。また国別の代表的な陶芸家の情報や作品も紹介。世界中の陶芸に興味を持つ人々がつながることのできるプラットフォームを開設する。
→ 益子の世界ブランド化を実現し二次的に短期滞在観光客を獲得

新規性・展望

地域住民と滞在するインバウンドの多様な主体によって町の伝統文化を未来へと受け継いでいく多文化共生社会



関係人口の増加によって、世界中に益子焼の名が広まる
→長期的に持続しながらも、益子町の世界的ブランドとなっていく。

益子町が日本だけではなく、世界にとって多文化共生のリーディングタウンになる